

めくるめくめくる「女人……」

腹がへったので、山をおりる。橋のねきの橋本屋でない方(なんで?)と聞いていたもので、その隣りの会堂に入る。ばあやんがいた。お茶が出る。ついでに写真集が出る。

「これが入江さんの……、これが土門さんの……」六万内もする「女人高野堂生寺」が、手アカにまみれていた。

パラパラパラ。入江さんのめくったあと、いつくりと「女人……」を覗く。

「とろろ定食が来た。これがまたイケル。ホクがまた半分も食べてないのに、おやんは見事に二平らげていた。(実は中野君と小たりでまてたので)」「ワシ、この漬けもん食わんよって、あんたにやるわ」「ウン、オクナイ、オクナイ、ほやけど、これはええけど二つはメシがなけな(からいので)「食えんわ」。

ホウラの会話に「オガワリ、アリマスヨ」と左の住人「ほやったらあくんない」と調子にのるおやん。すると、メシだけなくおかずまで来た。彼が「食」終るころ、ようやくホウのドンナリもなまになつた。お茶をのみながら、またまた「手アカの



文化評論7月号に「妻よがんばれ」  
安子さんの登場

妻をめとらば 丈たけて みめ美しく 情けあり……

持つべきはよい女房。視点展であわや大賞というところまでいった安子さん。こんどは文評のグラビアにのる。ぐうたら亭主もたいがいなものだが、本文にのる解説文がいいのでまあまあ許せる、とか。文評は380円、皆さん1冊買って安子さんをもう一度見よう。6月上旬発売 予約は栄子さんまで。



丹後半島 撮影日記としたかった……

5月3日の夜から、4日5日と撮影に丹後半島に行ってきた。アツちゃんの心がけがよく、二日とも雨も降らず、いい天気だったと本人は言っていました。私は、私の心がけがよかったからかと思っています。

3日の深夜、竜岡というところから舞鶴のちよと先まで私がクルマの運転をしたのです。こんな長く走ったのは初めてで、スミオさんとアツちゃんは「こわさでいっぱいだったのではないかと思います。」

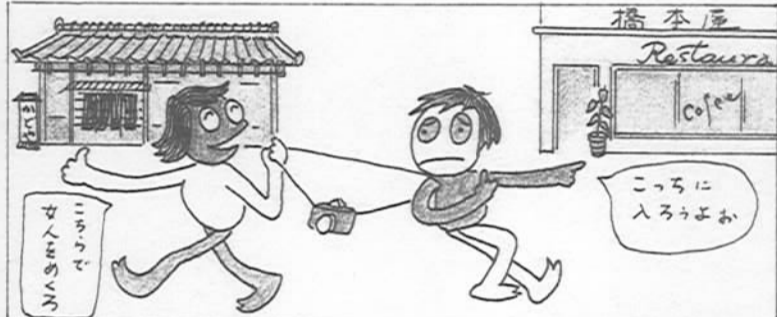
なんだかんだと一言いながら走っていると、だんだん空がしら。いざいざ海が見えてきました。

日本海を見るのは初めてで、せつたい太陽は山から登って来ると思っていたから、山の方はかり気にしなから走っていると、たっ、なんと海かう太陽のほって来るではありませんか。道はなにクルマをとめて、スミオさんとアツちゃんとはとんで行き、日の出のしゅんかんにいっしょうけんめい、シヤッターをみしていました。もちろん私も。

しかしきれいな日の出でした。下の絵のような感じで、まるきり絵はかきようでした。



和ちゃんの絵はすばらしくて  
もっともって感じの出た絵  
です。(編集部)



「女人……」をめくる。ホウらの他に各はひとりで、店の外は人でいっぱいなのにな……。

「ようやくシリを上げ、いくらかいなあ」と聞くと、正味二人分の額をのたまう。「追加ひたんやんな」とさうと「あははよろしいてさうう。」「すまんやあ」と出ようとする。「これもできない(五ヶ所やった?)」と甘夏みかんを一つずつくれた。「すまんやあ……」「オオキナ」と店を出るホウの顔、ソニーしてさう。

入り口のなま札をみると「かたやれとかかれていた。」「二人とも絶対あの店やあ」「ほなるわやあ」「帰ったら、アツちゃんに自慢したろ」と人波が押しよせる。空を抜け出した。

ただ、その日(4月29日)、なんとなく、ふっさりなかつたこと聞いてくれる? ホクがコウカン(紅顔? 厚顔? 編集部)の未成年だったころ泊った小学校か、統合されアトカタもなかつた。たっ、いまは見た親で来た、したれ村の穴木のある二の村のさびれた寺(大野寺ではない)を頭に定着させたまま、その高台からしばらく眼下にまわいを眺めてたや、なんにもせんでも、何かをやっている、ホウらはまちがいかいなく

4日の日は、天気かよすきてキラキラしていました。アツちゃんとはほとんど、ダウン。

5日は朝早く民宿をぬけたして、上せ屋というところへいきました。どことなく十津川に似ているみたいでした。なかなかいいところでした。

スミオさんいわく、東さんが、いけはよかつたと思つたような写真ができたそうです。

帰りは、北山杉のいっぱいある所の峠の茶店で、とろろそばをたべました。うまかつた。

5日の昼からは私がタウン、クルマに度々とすぐねていました。(後編 編集部より)

この二日間、スミオさんにほれなりました。たぶん回りがゆかにほれるというのほこうい、心境ではないかと思つています。

「子息の方は、どうなっているかあかしくないけれど、とても楽しかったです。」

スミオさんが、なんやう百万石に書いてくれと書いていたのですかと心れました。すみません。

丹後半島撮影日記として、私も書くことと思つたのですが、やめま。東さんへの報告おけにします。

は重の方たいへんだと思つていますが、少しでもヒマができたならまたいっしょに撮影にいけたらいいなと思つています。(カズキヤン)

「時代」に生きるとんやなつ。  
えッ! 「子息」はどうしたって? 今心のためカメラは一応持っていったヨ。石楠花はまたはやかつたけどなア……。(愛之くん)

皆さんが良くなれば私もうれしい!!  
「匡章」発刊に当たつて  
神原匡章  
KYOSYO  
創刊号  
昭和55年5月4日  
発行責任者 藤原勉  
編集責任者 堀部義則

(後記)  
鈴鹿の宮山君が「百万石」を自費出版しました。これが面白いこと面白いこと。部数僅少のため例会のときに持参します。

この間、みそぎに集ってきた人、84名。でもなんぼ、おらい人になつてもわれらのバラさんです。こんど彼のもとに集る人たちが、機関紙「オ1号」を出しました。ちゃんとしたほんとうの印刷で、百万石は口惜しい!